

アユ冷水病被害を軽減する放流技術確立試験(平成21年度)

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者名	尾田,紀夫 渡邊,長生
発行元	[栃木県水産試験場]
巻/号	54号
掲載ページ	p. 33-33
発行年月	2011年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



アユ冷水病被害を軽減する放流技術確立試験（平成 21 年度）

尾田 紀夫・渡邊 長生

目 的

種苗養成池から河川へ、という放流に伴う生育環境の急激な変化はアユ冷水病発生の大きな要因とされている。「アユ冷水病防疫に関する指針」（平成 20 年 3 月改訂、アユ冷水病対策協議会）では、放流時期・場所の決定にあたり、河川水温や流量、餌となる付着藻類の状況等、河川の状況を継続的に記録し、参考とすることとしている。しかし、これまで本県では、餌となる付着藻類の状況についての検証がされないまま放流事業が実施されてきた。そこで、河川におけるアユの主餌料である藍藻（ヒゲモ科 *Homoeothrix* sp.）の芽だし時期を調査した。

材料及び方法

調査方法 那珂川水系の漁業協同組合（以下漁協と表記）がアユを放流している場所の中から、放流数が多い場所 7 地点を選定した（図 1）。それぞれ調査地点

の河川の石に付着した藻類を歯ブラシでこすり落とし、河川水とともにサンプル瓶に入れ、水産試験場に搬入した後、光学顕微鏡により *Homoeothrix* sp.の有無を確認した。併せて、その時点の河川水温を計測した。調査は平成 21 年度の放流が始まる時期を考慮し、平成 21 年 3 月から 10 日間間隔で調査することとし、調査地点ごとに *Homoeothrix* sp.の確認ができた時点で終了することとした。

結果及び考察

すべての調査地点ともに、3 月上旬の第 1 回調査時に *Homoeothrix* sp.が確認された（表 1）。このことから那珂川及び調査対象とした支流では、3 月以降、河川内でアユの餌となる藻類の繁殖環境が整っていると考えられた。

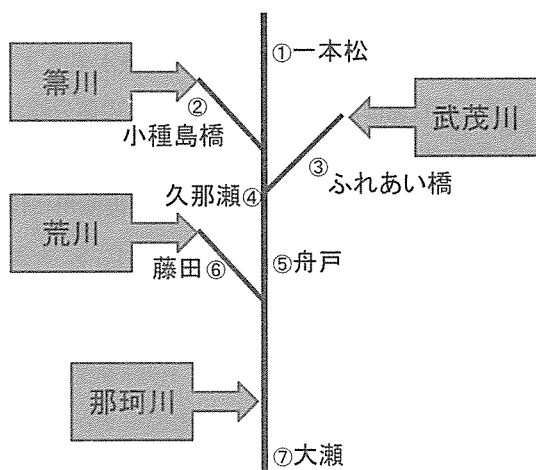


図 1 調査地点

表 1 調査結果

調査場所	調査日	水温(°C)	<i>Homoeothrix</i> sp.の有無
① 那珂川 一本松	3月2日	7.1	有
② 筈川 小種島橋	3月5日	9.3	有
③ 武茂川 ふれあい橋	3月3日	3.8	有
④ 那珂川 久那瀬	3月3日	6.0	有
⑤ 那珂川 舟戸	3月9日	8.3	有
⑥ 荒川 藤田	3月9日	9.5	有
⑦ 那珂川 大瀬	3月2日	9.0	有

(水産技術部)

〔水産技術部〕

アユ冷水病被害を軽減する放流技術確立試験 (p33)

河川におけるアユ冷水病被害を軽減する方策の一つとして、河川内にアユの餌料が十分に育った後の種苗放流実施が挙げられます。そこで、河川内でのアユの主餌料である藍藻 *Homoeothrix* sp. の芽だし時期を調査しました。その結果、調査した那珂川水系本支流の 7 地点すべてで 3 月上旬には *Homoeothrix* sp. の芽だしを確認しました。那珂川水系では概ね 3 月以降の放流であれば、餌料不足の影響による冷水病発生は回避できると考えられます。